調 査 速 報

浜銀総合研究所　調査部　産業調査室　　2014.5.2

国内新車販売統計（2014年４月）
乗用車需要が新車から中古車市場にシフトしている

○４月の新車販売統計で増税影響を判断するのは時期尚早

・５月１日発表の４月の国内新車販売台数（登録車＋軽自動車）は前年同月比 5.5%減と８か月ぶりに前年割れに転じた。季節調整済年率換算値(X-12-ARIMA にて当社試算 (注)、以下 SAAR)は前月比 12.7%減の 519 万台と、駆け込み需要の反動減が続いている(図表１)。

・なおディーラー各社は３月末に多くの受注残を抱えていたため、その注残の消化が４月の統計に反映されており、駆け込み需要の余熱が残っていた。増税後の需要は５月以降の販売統計に鮮明に現れる。従って４月統計で足元の需要動向を判断するのは時期尚早である。

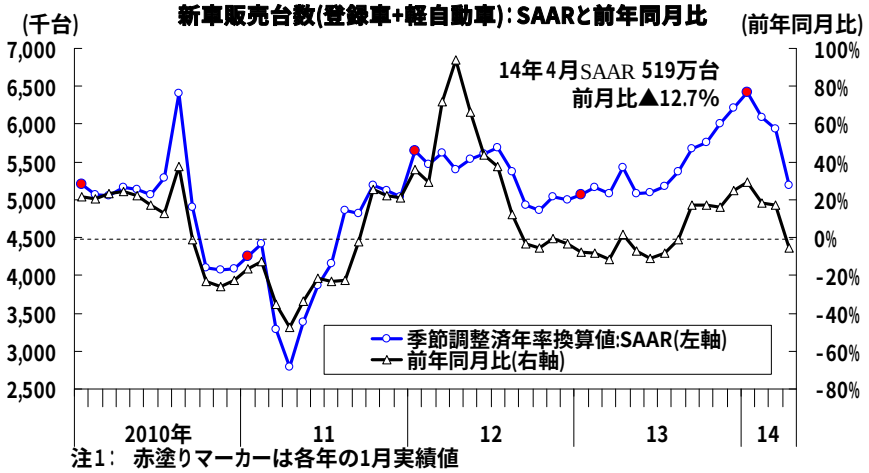
・登録車と軽自動車ともに SAAR は前月比で低下した。新車販売の内訳は、登録車（乗用車＋貨物車＋バス、除く軽）が前年同月比 11.4%減、SAAR が前月比 17.6%減の 293 万台（図表２）。軽自動車は前年同月比 2.9%増だが、SAAR は前月比 13.3%減の 210 万台（図表３）。新車販売に占める軽自動車比率は 45.3%と前月比 6.7%ポイント上昇した。12 か月後方移動平均値も前月比 0.4%ポイントアップの 40.2%となり上昇基調に変わりはない(図表４)。

・貨物車（普通＋小型トラック）の実需は減少に転じた。販売台数の原数値は前年同月比 7.8%減少し、SAAR は前月比 29.7%減の 33.2 万台となり大きな反動減となった(図表５)。

・新車販売の SAAR は１月にピークに達し２月から減少しているが、後述のように中古車販売の SAAR は３月までは上昇基調で中古車需要は拡大している。中古車販売も４月に入り反動減を迎えているが、国内自動車市場のパイが縮小する中で、新車需要の中古車市場への流出が今後も続くかどうかに注意したい。

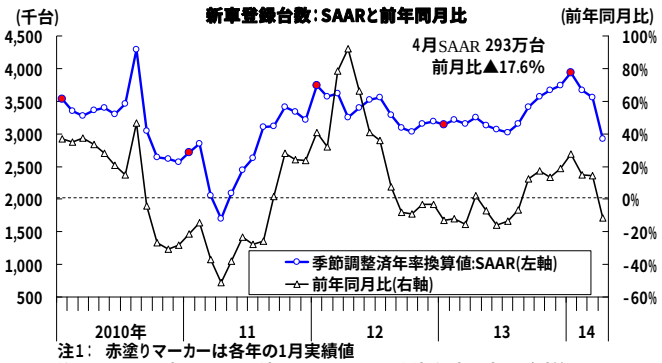
（注）今月のレポートより季節調整法を X-12-ARIMA とした。前月のレポートでは移動平均法を採用。季節調整係数の算出前提は、①サンプル:04 年１月以降の 120 か月、②曜日効果の回帰変数は閏年変動を考慮した td (trading day)、③水準変化(LS2010.10:エコカー補助金終了後の需要減)、減衰的外れ値(TC2011.3:東日本大震災影響)を外れ値として検出、④TRAMO-SEATS 法により ARIMA 次数は(010)(110)に確定。

図表１　駆け込み需要発生後の反動減が続いている



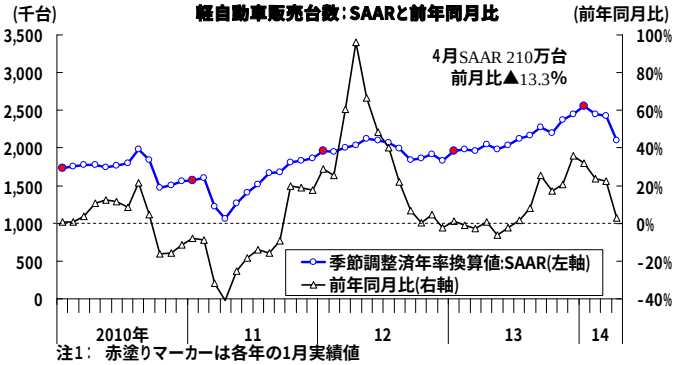
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値
注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算
出所：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

図表２　登録車 SAAR の前月比低下が続く



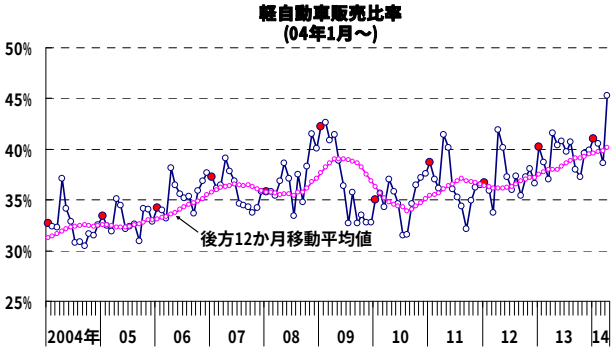
注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値
注2：　SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算
出所：　日本自動車販売協会連合会より作成

図表３　軽自動車の SAAR 低下も厳しい



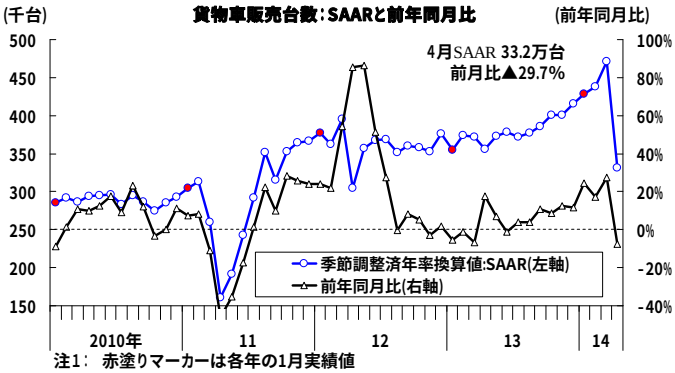
注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値
注2：　SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算
出所：　全国軽自動車協会連合会より作成

図表４　軽自動車販売比率の上昇基調が続く



注：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値
出所：　日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

図表５　貨物車販売では大きな反動減が発生



注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値
注2：　SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算
出所：日本自動車販売協会連合会より作成

○軽乗用車市場における中古車への需要シフトが進む可能性に注意

・乗用車市場における新車需要の反動減が進む中で、中古乗用車の需要は拡大し続けている。図表６は乗用車市場（含む軽）における新車販売と中古車販売の SAAR 及び全体需要(新車＋中古車)に対する中古車販売比率の推移を示している。新車販売の SAAR は駆け込み需要の反動減の影響で、１月をピークに２月から低下している。一方で中古車販売の SAAR は２月に一旦は前月比で低下したものの、３月には再度大きく上昇した。中古車比率は１月から上昇基調にあり、自動車需要の新車から中古車市場への流出が進んでいる（４月の中古車販売台数は登録車が５月 14 日に、軽自動車は５月 23 日前後に発表される)。

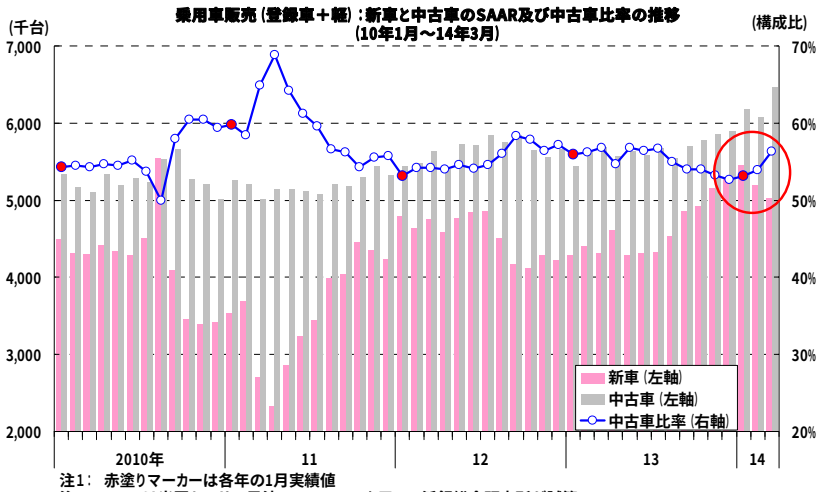
・足元の中古車の需要拡大には、中古車価格の割安感が強まっていることが背景にある。新車の駆け込み需要の発生で市場では多くの下取り車が流通し、これにより中古車市場の供給量が大きく増加した。その後、３月末に向けて多数の中古モデルで価格下落が進んだこともあり、中古車需要が盛り上がっている。４月に入ってから中古車市場でも消費増税の影響で販売は減速しているが、消費増税を機に今後新車から中古車へ需要シフトが進む可能性は無視できない。中でも軽自動車の中古車需要は非常に旺盛である。

・３月の軽四輪車中古車販売台数は前年同期比 20.7%増の 49 万 5,496 台と過去最高を記録し、SAAR は前月比 10%増の 362 万台となった（図表７)。

・軽乗用車市場における中古車比率の上昇には注意が必要だ。新車需要の増加で軽乗用車の中古車比率は１月には 55%まで低下したが、３月には 58%まで上昇した（図表８)。このままのペースで推移すると、近い将来に中古車比率が６割を超える勢いである。軽自動車の購買者は価格に敏感なので、消費増税をきっかけとした新車から中古車への需要シフトが登録車よりも進みやすいと考える。加えて、足元では昨年登場したばかりのいくつかの新モデルが、登録済み未使用車（いわゆる「新古車」）として中古市場でその流通量を増やしており、年式の新しい中古車に対する値下げ期待が高まっている。

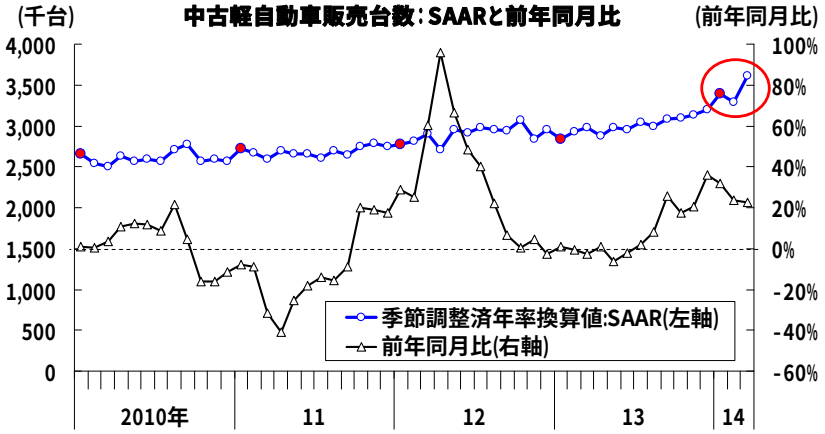
・完成車メーカー各社は軽乗用車の新モデル投入に積極的である。しかし、大手中古車卸売業者が小売事業を強化していること、軽自動車については海外市場への中古車輸出という国内需給の調整弁が存在しないこともあり、軽市場での販売競争がより一層激化することはメーカーと新車ディーラーにとって懸念材料である。中古車比率の上昇が一過性ではなく、構造的要因として４月以降も継続するかどうかを注視したい。

図表６　乗用車市場における中古車比率が上昇している



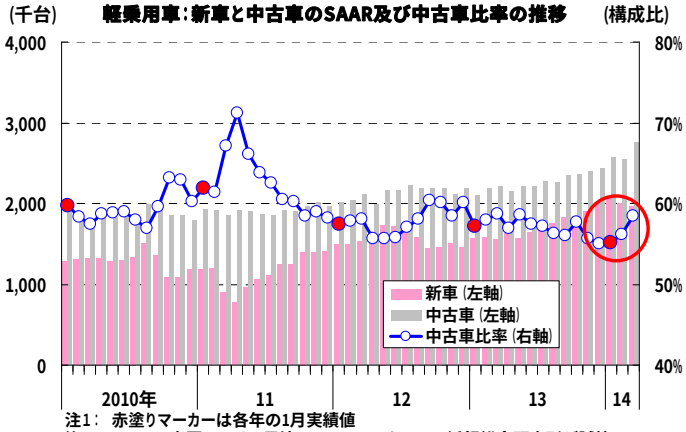
注1： 赤塗りマーカーは各年の1月実績値
注2： SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算
出所：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

図表７　中古軽自動車需要は過去最高を記録



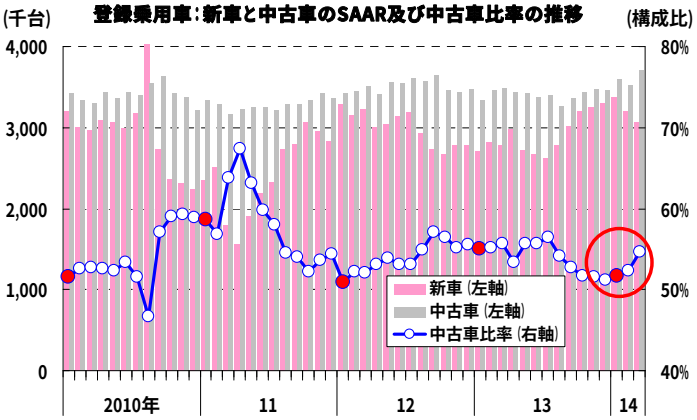
注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値
注2：　SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算
出所：　全国軽自動車協会連合会より作成

図表８　軽乗用車の中古車比率上昇に注意



注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値
注2：　SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算
出所：全国軽自動車協会連合会より作成

図表９　登録乗用車の中古車比率も上昇



注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値
注2：　SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算
出所：日本自動車販売協会連合会より作成

担当：調査部　産業調査室　深尾三四郎
ＴＥＬ　０４５－２２５－２３７５
E-mail: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。